

## マーケットの動き（2024年2月19日～2月22日）

先週の国内株式市場は、前週末比で上昇しました。週前半は米国市場の休場や米国半導体大手の決算発表を控え利益確定売りが広がり、軟調に推移しました。22日早朝に同半導体大手が市場予想を上回る決算を発表したことから半導体関連株に買いが波及し、日経平均株価は史上最高値（3万8,915円）を34年2カ月ぶりに更新しました。

## 投資環境見通し（2024年2月）

## 国内株式相場はレンジ内での動き

企業業績については、円安進行や半導体需要の底打ち、訪日外国人観光客による消費の回復を背景に、堅調とみています。国内株式相場は、依然として緩和的な金融政策に加えて、東証が主導するPBR（株価純資産倍率）改革が支援材料と考えられますが、これまでの上昇相場の中で業績ならびに需給の改善についてはすでに相当程度織り込まれたとみられ、当面はレンジ内で推移するとみています。

	2月22日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
TOPIX（東証株価指数）	2,660.71	1.37%	4.67%	16.85%	34.70%
日経平均株価	39,098.68	1.59%	7.07%	22.14%	44.25%

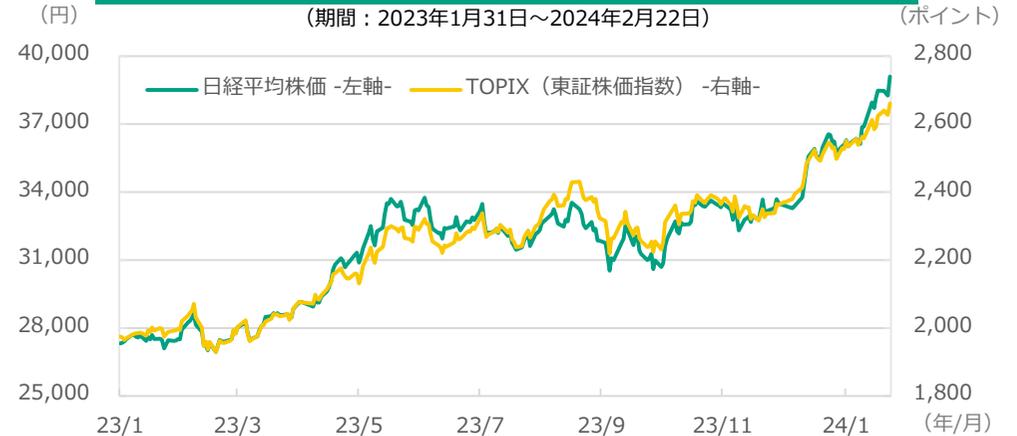
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

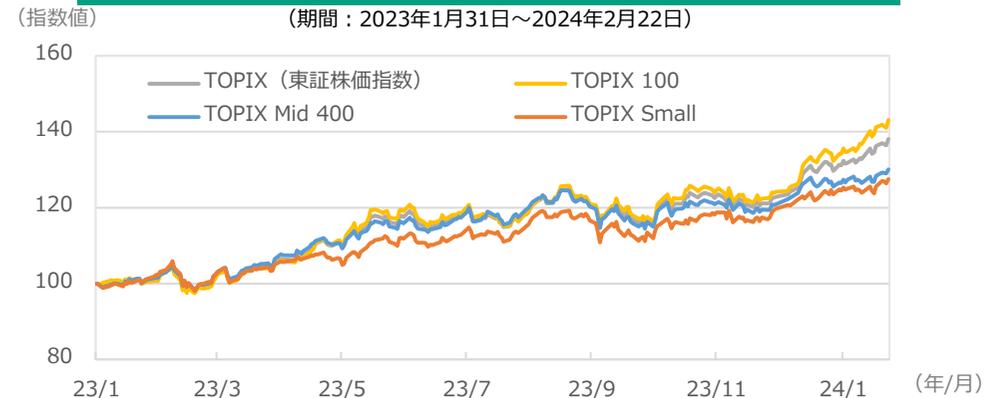
[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202402\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202402_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目録見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

## 日経平均株価、TOPIXの推移



## TOPIX規模別指数の推移



※2023年1月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

## マーケットの動き（2024年2月20日～2月23日）

先週の米国株式市場は、前週末比で上昇しました。

週前半はFRB（米連邦準備理事会）による早期利下げ観測が後退し、持ち高調整の売りが先行しました。21日夕に米国半導体大手が市場予想を上回る決算内容を発表したことから、半導体市場に対する強気な見方が広がり、米国株式は成長株や景気敏感株を中心に堅調に推移し、NYダウ、S&P500は最高値を更新しました。

欧州株式市場は、ドイツ株式市場は上昇した一方、英国株式市場は下落しました。

## 投資環境見通し（2024年2月）

## 外国株式相場は、米国、欧州ともに上値は重い

企業業績については、半導体市場や人工知能に対する期待感に加えて依然として堅調な個人消費に支えられ、底堅く推移するとみています。米国株式相場は、景気が軟着陸するとの見方に加え、ハイテク企業の好業績にも支えられるとみられますが、これまでの金利上昇の影響もあり、上値の重い展開になるとみています。欧州株式相場は、ECB（欧州中央銀行）による早期の利下げ観測が後退する中、域内ならびに経済関係の強い中国において先行き不透明な景況感を背景とした企業業績の下振れ懸念から、上値の重い展開になるとみています。

	2月23日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
S&P500種株価指数	5,088.80	1.66%	4.61%	14.72%	26.83%
NYダウ	39,131.53	1.30%	3.23%	13.51%	18.03%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

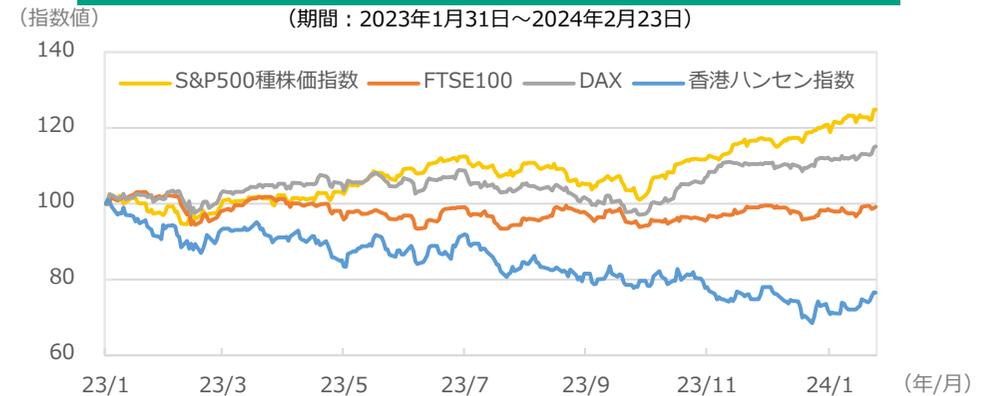
[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202402\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202402_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目録見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

## 米国株価指数の推移



## 主要国株価指数の推移



※2023年1月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

## マーケットの動き（2024年2月19日～2月22日）

先週の国内債券市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。前週の流動性供給入札に続き、20日に実施された20年債入札が強い結果に終わり、投資家の強い需要が確認されました。週末には植田日銀総裁が国会における答弁で、日本経済が「デフレではなくインフレの状態にある」との見解を示し債券は売りに押される場面があったものの、超長期を中心に押し目買いも入りました。クレジット市場は、引き続き堅調な推移となりました。

## 投資環境見通し（2024年2月）

## 国内長期金利はレンジ内での動き

年初の能登半島地震の影響から、日銀が早期に政策変更を行うとの見方は一旦後退しましたが、4月にゼロ金利政策の解除を行うとの見方も残ることから、国内長期金利は当面はレンジ内で推移するとみています。

	2月22日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	0.72	▲0.01	0.07	0.05	0.21
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	367.17	0.26%	▲0.36%	0.09%	0.06%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

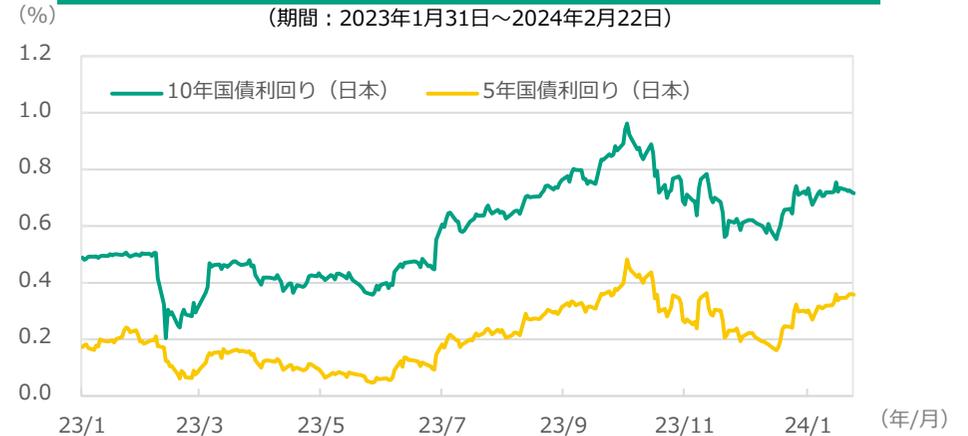
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202402\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202402_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなされるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

## 日本国債利回りの推移

（期間：2023年1月31日～2024年2月22日）



## NOMURA-BPI総合指数の推移

（期間：2023年1月31日～2024年2月22日）



※2023年1月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

## マーケットの動き（2024年2月20日～2月23日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。21日公表のFOMC（米連邦公開市場委員会）議事要旨でFRB（米連邦準備理事会）の利下げに対する慎重な姿勢が確認されました。同日、米財務省が実施した20年債入札が「低調」な結果となったことも長期債相場の重荷となりました。週末は、来週の米国PCE（個人消費支出）物価指数（1月分）発表などを控え、持ち高調整目的の買いが入りました。欧州国債市場は、おおむね米国に連動した推移となりました。

## 投資環境見通し（2024年2月）

## 長期金利は、米国、欧州（ドイツ）ともに小幅に上昇

**米国：**インフレの鈍化が進む中、長期金利は低下局面に入るとみえています。ただし、短期的には底堅い雇用市場や個人消費から早期の利下げ観測が後退するとみられ、長期金利は小幅に上昇するとみえています。

**欧州：**域内景気の停滞感が強い状況においても、賃金やサービス価格の上昇率は依然として高水準のため、ECB（欧州中央銀行）が景気重視姿勢に転換するには時間を要するとみられます。欧州（ドイツ）長期金利は小幅に上昇するとみえています。

	2月23日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	4.26	▲0.03	0.12	0.07	0.38
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース(騰落率)	580.78	0.70%	1.35%	6.86%	15.85%

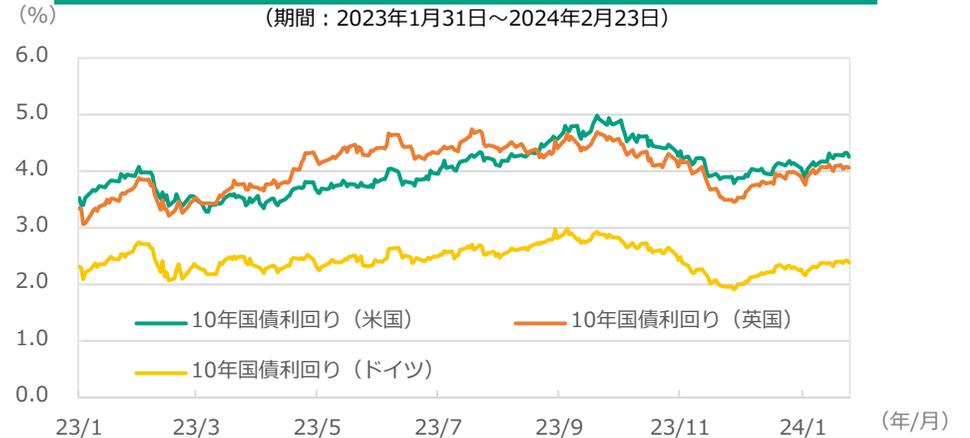
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202402\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202402_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

## 主要国国債利回りの推移



## FTSE世界国債インデックスの推移



※2023年1月31日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

## マーケットの動き（2024年2月19日～2月22日）

先週の国内リート市場は、前週末比で下落しました。

米国の早期利下げ観測が後退したことや日米の株高などから国内リートの相対的な投資妙味が薄れ、売りが優勢となりました。週末、植田日銀総裁が国会答弁において、日本経済が「デフレではなくインフレの状態にある」との見解を示したことで、日銀による早期の政策正常化が改めて意識されました。

セクター別では、オフィスセクターが上昇した一方、住宅セクターや商業・物流等セクターが下落しました。

## 投資環境見通し（2024年2月）

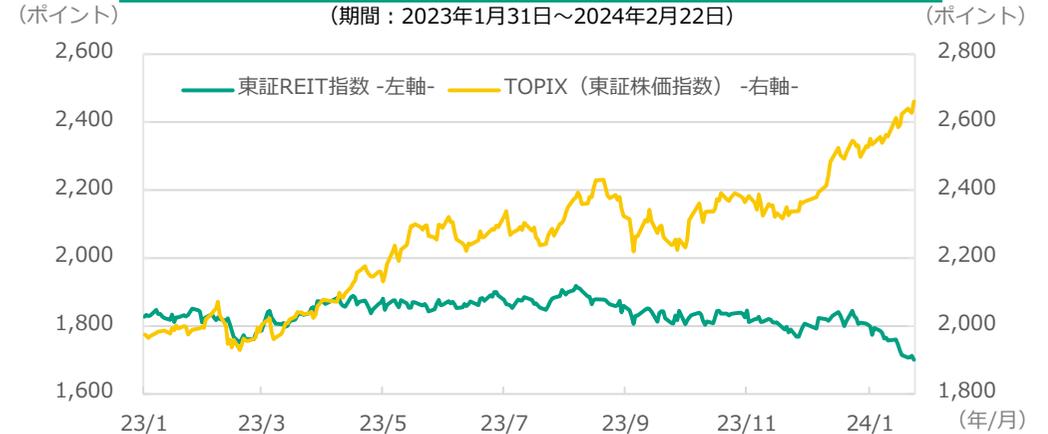
## 国内リート市場は、底堅く推移すると予想

1月決算の国内リートにおいて、エリアにより強弱はあるものの渋谷を中心としたオフィス需要の回復傾向がみられたほか、物流施設における力強い賃料増額や、ホテル業績の回復傾向などもみられました。加えて、株式会社の自社株買いに相当する自己投資口の取得など資本コストを意識した動きや、バリューアップ工事により賃料増額を目指す動きが増えています。こうした環境の中、日銀の金融政策正常化に対する警戒感が重石となりますが、投資主価値向上に向けた取り組みが期待されることから、国内リートは底堅く推移すると予想します。

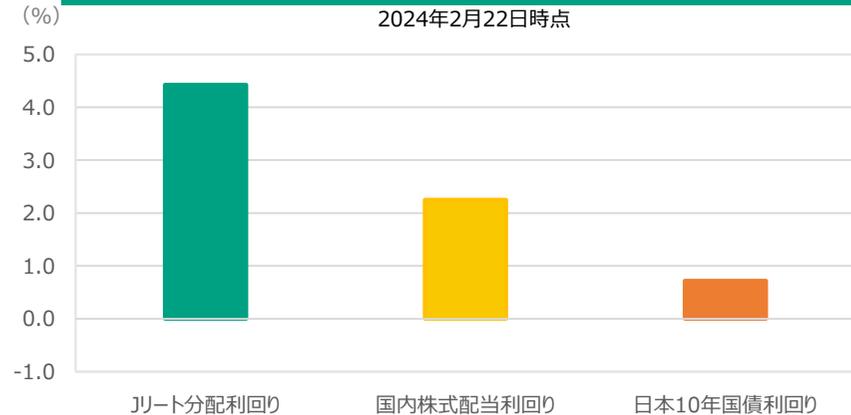
	2月22日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
東証REIT指数	1,700.68	▲0.81%	▲7.04%	▲9.09%	▲7.20%
<ご参考> TOPIX（東証株価指数）	2,660.71	1.37%	4.67%	16.85%	34.70%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

## 東証REIT指数、TOPIXの推移



## 国内各種資産利回り



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

## マーケットの動き（2024年2月19日～2月23日）

先週の為替市場は、前週末比で米ドルは対円で上昇（円安）しました。

21日公表のFOMC（米連邦公開市場委員会）議事要旨でFRB（米連邦準備理事会）の利下げに対する慎重な姿勢が確認され、日米金利差の拡大を材料に円が売られました。また、日米の株高を受けて投資家心理が強気に傾いたことも円の重荷となりました。

ユーロは前週末比、対円・対米ドルともに上昇しました。

## 投資環境見通し（2024年2月）

## 円に対して米ドルは強含み、ユーロは小幅に上昇

**米ドル：**中期的には日米金利差が縮小するとみられることから、円高ドル安方向に向かうとみています。ただし、短期的にはFRB（米国連邦準備制度理事会）による早期の利下げ観測、および日銀による早期の政策修正観測がともに後退する可能性があり、新NISA（少額投資非課税制度）を通じたドル買いもあり、ドルは円に対して強含むとみています。

**ユーロ：**ECB（欧州中央銀行）による早期の利下げ観測が後退するとともに、賃金上昇率の高止まりを背景としたインフレ警戒感も根強いことから、ユーロは円に対して小幅に上昇するとみています。

	2月23日	変動幅（円）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
米ドル/円	150.54	0.30	2.05	5.79	15.69
ユーロ/円	162.90	1.08	2.06	5.90	20.01

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202402\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202402_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

## 為替レートの推移（対日本円）



## 為替レートの推移（対米ドル）



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

## 使用インデックスについて

●TOPIX は、株式会社 J P X 総研が算出する株価指数であり、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。TOPIX の指数値及び TOPIX に係る標章又は商標は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など TOPIX に関するすべての権利・ノウハウ及び TOPIX に係る標章又は商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、TOPIX の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。

●東証REIT指数（配当込み）は、株式会社 J P X 総研が算出する株価指数であり、東証市場に上場する不動産投資信託（Real Estate Investment Trust）全銘柄を対象とした浮動株ベースの時価総額加重方式により算出されます。東証REIT指数（配当込み）の指数値及び東証REIT指数（配当込み）に係る標章又は商標は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など東証REIT指数（配当込み）に関するすべての権利・ノウハウ及び東証REIT指数（配当込み）に係る標章又は商標に関するすべての権利は J P X が有します。J P X は、東証REIT指数（配当込み）の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。

●日経平均株価に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。なお、日本経済新聞社は対象インデックスを用いて行われる事業活動・サービスに関し保証するものではありません。

●NOMURA-BPI総合はわが国の公社債市場全体の動きを捉えたものとして、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社により公表されている指数で、機関投資家等に広く利用されており、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社の知的財産です。野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は当社の個々のファンドの運用成果等に関し一切責任はありません。

●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLC により運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLC は、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLC に帰属します。

●その他当資料にて使用したS&P500種株価指数、DAX指数、FTSE100、NYダウ指数の知的財産権、その他一切の権利は、それぞれ、スタンダード&プアーズ ファイナンシャル サービスズ エル エル シー、ドイツ取引所、FTSE社、S&P Dow Jones Indices LLCに帰属します。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。